No. 36

THE ROTARY CLUB OF KARIYA

Weekly

創立　1954年３月８日
承認　1954年３月30日

2024～2025年度　国際ロータリー　ステファニー A. アーチック 会長テーマ

THE MAGIC OF ROTARY　ロータリーのマジック

例会日時　毎週月曜日
12：30～13：30
例会場　刈谷市新栄町３の26
刈谷商工会議所内
事務所　TEL〈0566〉22-2111
FAX〈0566〉25-2111
メール　kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ　http://www.kariya-rotary.com
会長　内藤　昇
幹事　磯部　一智
会報委員長　花井　淳

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3277回例会プログラム

［当年度＝36回目；当月＝１週目］

2025年（令和７年）６月２日(月)

１．例　会……〈司会：プログラム委員会〉

12：10　〈食　事〉
12：28　１．チャイム
12：30　２．点　鐘 ……〈副会長〉
３．開会宣言
４．国歌斉唱
５．ロータリーソング斉唱……奉仕の理想
６．講師・ゲスト並びにビジター紹介
７．副会長挨拶並びに副会長報告
８．お祝い
（誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝）
９．幹事報告
10．副幹事報告
11．出席報告
12．委員会報告
13．ニコニコボックス報告
14．次週並びに次々週のプログラムの予告
（６／９）……
休　会（定款第７条第１節（d））
（６／16）……クラブ協議会
次年度委員会別事業計画の検討

13：00　15．本日のプログラム
卓話　「森林における環境問題」
講師　協同組合東濃地域木材流通センター
センター長　片田　岳史 様
（紹介者　池田　直樹 会員）

16．謝　辞
17．点　鐘……〈副会長〉
18．閉会宣言

13：30　19．散　会

出　　席

会員総数　94名　　出席免除　23名
出席義務者＋免除者の内例会出席者　89名
欠　席　12名　　出席率　86.52%
前々回（５／19）の修正出席率 100%

副 幹 事 報 告

１）次年度の手帳の原稿を回覧しますので、ご覧頂き、訂正のない方は写真の下に OK を記入、ある方は訂正をお願いします。

副会長あいさつ

佐野　眞琴

皆様こんにちは。本日は４回目、そして自分にとっては最後の会長代理の挨拶となります。さて、本日６月２日は、横浜と長崎の港の開港記念日だそうです。皆様も日本史で勉強されたかもしれませんが、1859年６月２日、日米修好通商条約によって、今の横浜港である神奈川港と長崎港が開港されたことによるものだそうです。横浜港では開港を記念して、多くのイベントが開催されるようです。

さて本日は私の最後のお話になりますので、トヨタのモノづくりで、私が経験してきて、大事だなと思うことをお話ししたいと思います。

モノ造りの基本はいかに付加価値をつけるかということです。そして付加価値を付ける以外の仕事をいかに減らすかということです。

トヨタでは、よくモノは形を変えながら流れていくと言っています。この形を変えるということが付加価値を付けることですが、形が変わる瞬間だけが付加価値がつくのであり、それ以外の時間をいかに減らしていくかが、とても大事です。この付加価値のつかない仕事を改善によってどのように減らすかが、収益をあげ、体質を強化するのに、重要であると考えています。

もう一つは流れということです。流れが止まるとそこ

に停滞が生まれ、在庫が発生したり、余分な仕事が発生します。逆に停滞しているところには、問題が隠れていることが多く、改善のポイントになります。こうした積み重ねで、現場は強くなっていきます。

日々の生産では色々な問題が発生します。そうした問題を解決していくことが、原価を下げ、人材育成にもつながり、体質強化になっていきます。その際大事なことは現地現物で、問題にあたるということです。現地に行って、実際に問題が起きている工程や製品の現物を見て、原因がわかるまで観察する。たいていの問題は、現場をしっかり見ていれば分かることも多いと思います。見方が甘くて、原因がつかめないでいると、「お前のは、現地現物ではなくて、現地見物だ。」とよく指導を受けたものです。また、ナゼナゼを繰り返して、真因を追求していきます。よく５回のナゼナゼと言われていますが、その時に大事なことは、人に聞くな、モノに聞けという姿勢です。

問題が起きた時には、誰々のやり方が悪かった、誰々の不注意だったと、人に原因を求めることがままあります。そうして、誰々に注意した。やり方を見直した。という対策で済ますこと多いですよね。でもやり方の悪さや間違いには、そうさせる問題が隠れていて、その中に真の原因があることの方がはるかに多いと思います。注意をした、やり方を変えただけは、問題は再発します。真の原因究明は人ではなく、設備や設計、仕組みなどに求めていくことです。そうすることで再発を防ぐことができると思います。またどこかで、こうしたお話が出来ればと思います。本日は有難うございました。以上です。

お　祝　い

６月の会員の誕生日…池田憲司、下谷敏朗、神野公秀、磯部一智、北野達生、北澤亮二、磯村巌会員。

配偶者の誕生日…嶋津百合子（孝久）、神野弥生（公秀）、角谷典子（広高）、松村直子（文登）新美愛（大輔）様。

結婚記念日…毛受豊、神野公秀、池田直樹、加藤大志朗、宮坂直木、寺田博正、服部智会員。

６月度入会記念日…小林祥浩、杉山欣輝、塚本幸夫、横山宜幸、宮地秀将、新美大輔、横山裕司、丸山和則、北澤亮二、松村文登、中村智会員。

卓　　話

「森林における環境問題」

講師　協同組合東濃地域木材流通センター
センター長　片田　岳史 様

刈谷市の水道は、木曽川を水源とし、恵那市の阿木川（あぎがわ）ダムから愛知用水を経て、皆さまの家庭や企業へ供給されています。つまり、恵那市をはじめ東濃地域の山を適切に管理・保全することは、私たちの「いのちの水」を守ることに直結しており、山を守ることは海を守ることにもつながるのです。

１．東濃ヒノキとは

岐阜県恵那郡・加茂郡・益田郡の「裏木曾」と呼ばれる地域産の人工林ヒノキ。木曽川・飛騨川流域に位置し、良質な原木が多く産出されます 。

２．東濃ヒノキの特徴

- **良質な原木**：樹齢80年以上で年輪幅が狭く、通直性が高い 。
- **高度な製材技術と選別**：乾燥処理後に不良材を除去し、再度製材（二度挽き）することで寸法安定性を向上。厳しい等級選別により高い信頼性の化粧等級を確保 。
- **美しい色つや**：淡いピンク色で挽き肌が美しく光沢があり、独特の香気を有する 。
- **確立されたブランド**：昭和30 ～ 40年代に「東濃桧」のブランドが形成され、現在も高評価を得ています 。

３．岐阜県森林資源の現状

- 森林面積：86.2万 ha（全国５位）、森林率：81％（全国２位）、森林蓄積：1.79億 m^3（全国８位）
- 民有林人工林の齢級は51 ～ 55年生がピーク、蓄積量は年々増加し、年間130万 m^3ずつ増大 。
- 木材生産量は平成19年の314千 m^3から令和元年の573千 m^3へ約57％アップ、労働生産性も3.42m^3／人日から5.39m^3／人日に1.8倍増加 。

４．持続可能な社会の実現に向けて

木材は再生可能資源であり、成長過程で CO_2を吸収・固定した炭素を長期間にわたり溜め込む「炭素固定装置」としての役割を持ちます。炭素は、樹木の成長に伴い、森林は地球の大気中 CO_2濃度の緩和に貢献します 。

５．環境問題と地球規模の視点

20世紀の人口増加や工業化は CO_2濃度を280ppm から400ppm へと押し上げ、森林減少や化石燃料消費の増大が進行。現在、世界の人口は80億人を突破し、森林減少による「地球船地球号の肺」の縮小が深刻化しています。

６．木造建築の地球環境保全効果

- 主要構造材としての木材は、製造時炭素放出量が鉄骨やコンクリートに比べて小さく、住宅１棟（136㎡）あたりでも大幅に低炭素
- 木質資源の使用期間を長期化し、樹木の成長速度を超

えない量の伐採を維持すれば、木材は永久に持続可能な資源であり、カーボンニュートラルを実現 。

7．東濃地域国産材の流通経路

製材工場から市場、仲買業者、木材市場、小売業者、大工・工務店へとつながる流通ネットワークを図示し、地元産材の活用促進を図っています 。

8．県産材需要拡大への取り組み

・地元東濃ヒノキを軸に、大・中規模建築物への活用を推進
・羽柄材や下地材など、建築用材のすべてを国産材へ切り替える提案
・初市や展示会などを通じたブランド浸透と販路拡大活動 。

刈谷市の水道は木曽川を水源とし、恵那市の阿木川ダムから愛知用水を経由して皆さまの家庭や企業へと供給されています。つまり、恵那市をはじめ東濃地域の山々を適切に管理・保全することは､私たちの「いのちの水」を守ることであり、同時に海洋環境を守ることにもつながるのです。

岐阜県東濃地域（恵那郡・加茂郡・益田郡）の「裏木曽」で育つ東濃ヒノキは、樹齢80年以上の人工林ヒノキで、年輪幅が狭く通直性が高い良質原木が特徴です。製材後は十分に乾燥させて不良材を除去し、再度二度挽きすることで寸法安定性を向上。厳格な等級選別を経て化粧等級の品質を確保しています。淡いピンク色の光沢ある挽き肌と清々しい芳香が高く評価され、昭和30 ～ 40年代に確立された「東濃桧」のブランドは今なお信頼と実績を誇ります。

県内の森林面積は86.2万 ha（全国 5 位)、森林率81%（全国 2 位)、蓄積量1.79億 m^3（全国 8 位）と豊富な資源を有し、人工林の成熟に伴い木材生産量は平成19年の314千 m^3から令和元年の573千 m^3へ57%増加。労働生産性も3.42m^3／人日から5.39m^3／人日に1.8倍向上しました。

木材は成長過程で大気中の CO_2を吸収・固定する「炭素固定装置」として機能し、鉄骨やコンクリートに比べ製造時の CO_2排出量が少ないため、長期利用によってカーボンニュートラルを実現できます。20世紀以降の人口増加と工業化で大気中 CO_2濃度は280ppm から400ppm へ上昇し、世界人口は80億人を超えて森林減少が「地球の肺」機能を低下させていますが、木造建築の普及は環境保全に大きく貢献します。

流通は製材工場から市場、仲買業者、木材市場、小売・工務店・大工へと地域完結型ネットワークを構築。今後は大・中規模建築への採用促進、羽柄材や下地材を含む建築用材の全面国産化提案、初市や展示会によるブランド浸透と販路拡大を通じて、地域経済の活性化と持続可能な森林経営の好循環を目指します。